

■■ 論文誌のオンライン出版について ■■

平成 20 年 4 月から論文誌（ジャーナルおよびトランザクション）は、冊子を廃止して電子図書館の掲載のみとなります。電子図書館のご利用には BookPark 上でユーザ登録（無料）が必要です。詳細は次をご参照ください。

■論文誌のオンライン出版（印刷物の廃止）について：事務手続きのご案内

http://www.ipsj.or.jp/03somu/kinen_jigyo/50anv/d-library/dl-ronbun-200710kaikoku.html

■論文誌等の完全オンライン化の意義

会誌 Vol.48, No.12 巻頭掲載

■電子図書館の利用方法

http://www.ipsj.or.jp/05system/digital_library/index.html

～*～*～ 会員サービスのご案内 ～*～*～

会員の皆様に特典としてご利用いただける各種サービスをご案内いたします（本会 Web ページ：<http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/service-ta.html> 参照）。会員特典等にご意見ご要望等がございましたら事務局会員サービス部門（E-mail:mem@ipsj.or.jp）までお寄せください。

ホテル（10～53%割引）

サンルートホテル、ホテル法華クラブ、JR ホテルグループ、東急ホテルズ、プリンスホテル、
阪急阪神第一ホテルグループ、JR 東日本ホテルチェーン、グランビスタホテル&リゾート、都ホテルズ & リゾート、
ホテル京急グループ、ダイワロイヤルホテルズ、エイチアールエヌ、ウィクリーマンション東京

レンタカー（10～51%割引）

ニッポンレンタカー、日産レンタカー、マツダレンタカー

パック旅行（3～7%割引）

日本旅行、近畿日本ツーリスト、トップツアー、京王観光、ジャルパックサービス、エンターテイメントエクスプレス

その他（書籍・コンピュータソフト割引販売、レンタルオフィス）

UC 丸善アカデミックカード、パーシティウェブ（教育機関所属の方はアカデミック価格で）、デスカット、
日本工業技術振興協会

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、12月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「情報技術が支えるアートとコンテンツの世界ー Art with Science, Science with Art ー」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■音楽と技術というと、兼常清佐（かねつね きよすけ）を思い出します。この人、「ピアニストが弾こうが猫が弾こうが同じことだ」というような奇言ばかりが知られていますが、「音楽の骸骨のはなし」（柴田南雄、音楽之友社）6節によれば、Ethno-informaticsの走りのような仕事をされていたらしい。活動された期間が昭和初期～第二次大戦終戦頃ということで、民謡を映画のサウンドトラックに録音して、波形を顕微鏡で観測し、手回し計算機で音の高さを計算する、という途方もなく手数のかかる方法をとっていたようです。とはいえ、計算的方法で民謡を分析した結果を出されていることは確かです。前記、柴田先生の本も昭和53年の刊行なので、今のように自由に計算機を使うことは考えられず、1つの可能性として述べられています。今なら、民族音楽や、とても新しい時代、ないしとても古い時代の、演奏家が少ない音楽を自動演奏で再現するなど、面白い展開ができたと思うのですが。（木村高久）

■「オンラインゲームの課題とその制作支援」は非常に興味深かった。実空間とゲーム空間との融合は可能なのだろうか？（匿名希望）

■新しい技術・技法は新しいという理由だけで芸術から疎外される傾向があります。写真や映画は今や芸術の一分野として認められています。かつてはそうではありませんでした。コンピュータを用いたものはまだ芸術の一翼を担うに値しない風潮がありますが、今回の特集を拝読して、そろそろそうした風潮が変わるのではないかと感じました。（匿名希望）

■「デザイン転写による音楽制作支援」では、最近、世間の耳目を集めている、いわゆるボーカロイドとも言われるアプリケーションの基礎技術を平易に解説しており、大変参考になりました。強いて言えば、音楽制作に関するアルゴリズムにも詳しく触れてほしかったと思います。「オンラインゲームの課題とその制作支援」では、「オンラインゲームは害悪である」という先入観にとらわれることなく、むしろこれからのエンタテインメントの一形態であるとして積極的に評価していた点に共感を覚えました。ただ、(ゲームを作ることを職業としていないという意味の)アマチュアがオンラインゲームを制作することが最近増えているように思われます。愚見では、こうしたアマチュアによるオンラインゲームの制作は、1年を通して平均的・恒常的に行われているというよりは、むしろ夏と冬という2つの時期に集中して行われている、という印象を持っています。季節による制作量の増減についても分析を

行ってほしかったと思います。

（水野光朗）

■現在の情報技術が芸術分野にどのようにかかわっているのを知ることができ、大変面白く読みました。（匿名希望）

■油絵の筆のタッチや質感が、実際に描く操作を通じて表現されることに驚きました。（匿名希望）

■「オンラインゲームの課題とその制作支援」の中の「オンラインゲームの教育的利用」は興味深い記事でした。このような授業があるのなら、ぜひとも受けてみたいものです。（匿名希望）

■今回の特集テーマはアートということで、普段何気なく見聞きしていたアニメやゲームなどが、実際にはどう作られているのか、興味深く読ませていただきました。これまでの特集も大変有意義でしたが、やはりエンタテインメントが絡んでいるせいか、読んでいてまったく疲れを感じませんでした。（内山 彰）

■独自の発想・世界観と情報技術との融合により生み出されるアート・コンテンツの勢いを感じました。（匿名希望）

解説「大規模データのための対話的テキストマイニング」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■対話的テキストマイニングの記事が参考になりました。今後テキストマイニングなど自然言語処理に関する特集を希望します。（匿名希望）

■テキストマイニング技術は最近、関心を持っている分野であったので、その一端を分かりやすく解説していただき大変参考になりました。（古崎晃司）

巻頭言「論文誌等の完全オンライン化の意義」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■論文誌などの完全オンライン化は時代の流れだと思います。印刷物は残されている限り誰でも読めますが、電子文書は媒体が残っているだけでは読めるとは限りません。願わくば、他学会とも共通の閲覧基盤の上で、長期にわたって閲覧可能なオンライン環境が実現されますように。（木村高久）

■論文誌などの完全オンライン化は良いことだと思います。これからは、論文の書き方もオンライン化に合わせて工夫する必要がありますね。表現方法もオンライン化の特長を活かしたものが使えるようになると思うと、ワクワクします。（桶屋勝幸）

■当学会の先駆的な論文オンライン化が成功してほしいと思う。（匿名希望）

小特集「女性たちが拓くITーITダイバーシティフォーラムよりー」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■土井美和子さんの記事へのコメントです。「前例がない」という言葉は私もたびたび遭遇しましたので、共感します。人と違うことをしようとすると、必ずつまう言葉です。対処法も似てい

ます。その言葉を発言されている方に、影響を与えることのできる人や事柄に働きかけ、前例を作り上げることです。(桶屋勝幸)

■筆者の方々の気概と長年にわたるご苦労を垣間見ることができたように思います。男性IT技術者・研究者の苦労話なども希望します。(匿名希望)

■全般的になぜか読みやすかったです。表現や構成によるものなのでしょうか? 「次世代の女性技術者たちへのメッセージ」の、“一を聞いて十を知る状態かどうかで判断できると思う”には大いに同感です。英会話の話での“アウトプットよりインプット能力を優先せよ”には、30年近く昔のことですが、2級のアマチュア無線の試験を受けるための、モールス符号による通信の実技の練習を思い出しました。聞き取れば打てるようになるといわれていましたが、実際、送信に関しては電鍵を所有せず、ろくな練習もせず試験は通りました(アマチュア無線の実技試験はかなりぬるいですが)。(匿名希望)

■法が整備されてもなかなかうまくいかない女性の社会進出。実はその裏にはサービス残業も含めた日本の労働環境の著しい質の悪さも、大きな一因としてあるのではないかと感じている。ITなんて最も女性の感性が発揮でき、さらに働く場所も選べるのに…ワーキングプアの職種のひとつに成り下がっている有様。趣味でやるなら良いのだが、仕事としてやるには男性でもつらい。何とかしないと。今回の小特集では執筆者はみな女性。ぜひ老若の男性からの執筆も掲載してほしい。(匿名希望)

■次回も特集を組むのであれば、今度は女性だというマイナス面だけでなく、女性に対する奨学金・研究助成金や産休制度などがどれだけ効果を表しているかなどについても紹介していただければと思います。(匿名希望)

■普段あまり聞くことのできない女性研究者の皆様からご意見を伺うことができ、大変興味深いものでした。昨今では、商品開発など、さまざまな場面において女性ならではの観点が重要視されていると感じます。情報科学の分野においても、女性ならではの観点が新しい発想へとつながる可能性を秘めていると思います。日本における情報科学の発展のためにも、女性が活躍しやすい環境を整えるため、学会が中心となって活動していただけたらと思います。(内山 彰)

■IT分野で精力的に活動している多くの女性たちを知ることができ、大変に元気付けられました。と同時に、どの方も非常に優秀で努力家で、ここまですばらないとやはり女性がこの分野で生き残ることは難しいのかなと思ったりもしました。(匿名希望)

その他の記事につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■連載「仮想マシン道しるべ『仮想マシンを支えるハードウェア技術(インテル)』」について:インテルの人に寄稿いただけたのは画期的である。次号のAMDの記事にも期待する。ただ、I/Oの仮想化について「PCI SIGの資料を見ろ」は不親切。今後の連載で解説を希望する。(匿名希望)

■コラム「標準化よもやま話『言葉の壁、文化の差』」について:標準化に携わる者として、著者の意見に同意する。『標準化活動ガイドブック』なるものがあれば、標準化活動初心者も不安が少なくなるのではと、ふと思った。(匿名希望)

【本欄担当 屋代 聡、濱 利行/書評・ニュース分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」<URL:<http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>> に掲載していますので、そちらも参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>>

応募先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部門
E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4903.html>

ご意見をお寄せ
ください!!



IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
2008年				
	論文誌「メディアインタラクション研究の発展」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/08-TU.html	3月24日(月)		
	論文誌「メディアインタラクション研究の発展(テクニカルノート)」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/08-TU.html	3月24日(月)		
	論文誌「新しい時代を切り拓くモバイル通信と高度交通システム」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-C.html	3月31日(月)		
	論文誌「日常生活におけるコラボレーション支援技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-Z.html	4月11日(金)		
	論文誌「サービス融合を支えるネットワークアーキテクチャの新展開」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-V.html	5月12日(月)		
	論文誌「音楽情報処理」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-D.html	5月12日(月)		
	論文誌「組織における情報システム開発」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-X.html	5月15日(木)		
	論文誌「柔らかなサービスを支えるインターネット技術/分散システム運用・管理技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-W.html	5月28日(水)		
	論文誌「音声ドキュメント処理」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-Y.html	5月30日(金)		
3月13日(木)～	第70回全国大会			筑波大学
3月15日(土)	http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/70kai/index.html			
3月17日(月)～	第68回プログラミング研究発表会	1月17日(木)	当日のみ	日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所
3月18日(火)	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/PRO68.html			
3月17日(月)～	第159回ソフトウェア工学研究発表会	1月22日(火)	当日のみ	化学会館(御茶ノ水)
3月18日(火)	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/SE159.html			
3月19日(水)	第24回システム評価研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/EVA24.html	1月21日(月)	当日のみ	広島大学情報メディア教育研究センター本館
3月21日(金)	第67回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/GN67.html	1月21日(月)	当日のみ	東京工科大学
3月27日(木)～	第134回システムLSI設計技術・第8回組込みシステム	1月22日(火)	当日のみ	屋久島 環境文化村センター
3月28日(金)	合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/SLDM134EMB8.html			
3月27日(木)～	第184回自然言語処理研究発表会	2月15日(金)	当日のみ	情報通信研究機構(NICT)
3月28日(金)	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/NL184.html			
3月28日(金)	第90回情報学基礎第・65回デジタルドキュメント合同研究会発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/FI90DD65.html	1月28日(月)	当日のみ	専修大学神田校舎
4月21日(月)	北海道支部平成20年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			北海道大学大学院情報科学研究科
5月8日(木)～	第163回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会	2月28日(木)	当日のみ	京都大学
5月9日(金)	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/CVIM163.html			
5月22日(木)～	第185回自然言語処理・第71回音声言語情報情報処理合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/NL185SLP71.html	3月14日(金)	当日のみ	横浜国立大学
5月23日(金)				
5月22日(木)～	第45回モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/MBL45.html	3月17日(月)	当日のみ	沖縄県青年会館
5月23日(金)				
5月23日(金)	第41回コンピュータセキュリティ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/CSEC41.html	3月21日(金)	当日のみ	情報セキュリティ大学院大学
5月23日(金)	第78回人文科学とコンピュータ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/CH78.html	3月25日(火)	当日のみ	立命館大学(衣笠キャンパス)
5月28日(水)～	第128回ヒューマンコンピュータインタラクション・第75回音楽情報科学合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/HCI128MUS75.html	3月28日(金)	当日のみ	神戸市産業振興センター
5月29日(木)				
5月30日(金)	第40回電子化知的財産・社会基盤研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/EIP40.html	3月20日(木)	当日のみ	宇都宮大学
6月6日(金)	第66回デジタルドキュメント研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/DD66.html	3月28日(金)	当日のみ	
6月11日(水)～	The 4th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2008) http://www.icmu.org/icmu2008/			東京(秋葉原)
6月13日(金)				
6月11日(水)～	先進的計算基盤システムシンポジウム(SACSIS2008)	1月22日(火)		つくば国際会議場
6月13日(金)	http://www.hpcc.jp/sacsis/2008/			
6月19日(木)～	第160回ソフトウェア工学・第9回組込みシステム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/SE160EMB9.html	4月18日(金)	当日のみ	化学会館会議室(御茶ノ水)
6月20日(金)				

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
6月21日(土)～ 6月22日(日)	Visual Computing / グラフィクスとCAD合同シンポジウム2008 http://www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/vc2008/	3月10日(月)		国士館大学 理工学部 (梅ヶ丘キャンパス)
7月9日(水)～ 7月11日(金)	マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2008) シンポジウム http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/DICOMO2008.html	3月10日(月)		北海道 定山溪ビューホテル
7月28日(月)～ 8月1日(金)	SAINT2008 International Symposium on Applications and the Internet http://www.saintconference.org/			フィンランド
8月26日(火)～ 8月27日(水)	DA シンポジウム2008 - システム LSI 設計技術と DA - http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/S-DA2008.html	5月14日(水)		遠鉄ホテルエンパイア (静岡県)
8月30日(土)～ 8月31日(日)	4th International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech2008) http://www.collabtech.org/			和歌山県 (アバロン紀の国)
9月2日(火)～ 9月4日(木)	FIT2008 第7回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2008/index.html			慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
11月25日(火)～ 11月27日(木)	IWSEC2008 International Workshop on Security http://www.iwsec.org/			かがわ国際会議場
2009年				
	東海支部学生研究発表会助成 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/	2月28日(土)		
3月10日(火)～ 3月12日(木)	第71回全国大会 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/71kai/			立命館大学びわこ・くさつキャンパス
3月23日(月)～ 3月25日(水)	The 9th International Symposium on Autonomous Decentralized Systems (ISADS2009) http://www.ece.upatras.gr/isads2009/			Athens, Greece

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 2月15日 人材募集情報(2月)更新しました
- 2月1日 平成20年度 役員改選・代表会員選出, 電子投票実施のご案内 (投票締切: 3月3日)

[お知らせ]

- 2月15日 論文誌(ジャーナル)の論文査読状況を更新しました

人材募集 (有料会告)



申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へE-mail、Faxまたは郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国立研究機関 21,000円（税込）
賛助会員（企業） 31,500円（ 〃 ）
賛助会員以外の企業 52,500円（ 〃 ）
*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金4,000円で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係） E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■(株)アイズファクトリー

募集人員 正社員 若干名
募集職種 国家および企業内に蓄積された諸データの解析・研究、数理学・統計学・データマイニングを用いたデータ解析、解析手法研究
応募資格 修士または博士号取得者、またはそれと同等以上の論理的思考力を有する方、経験不問
着任時期 平成20年4月着任が望ましい
提出書類 履歴書（E-mailを明記のこと）、職務経歴書（または研究実績）、論文リスト、着任後の抱負（2000字程度）
応募締切 平成20年4月30日
送付先/照会先 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9 麻生ビル4F (株)アイズファクトリー 担当 岩崎 E-mail:info@isfactory.co.jp
Tel/Fax(03)5259-9004
その他 Webページ (<http://www.isfactory.co.jp/>)
「理学博士達で創るIT会社」共に日本を変えましょう!

■北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科

募集人員 准教授 1名（任期付き）
所属 情報基礎領域
専門分野 システムの形式的モデル化、検証、最適化に関する理論、数理的手法、およびツール。また、これらの技法を用いた応用分野
応募資格 博士の学位を有し、上記分野の教育および研究に熱意を有する方
着任時期 平成20年7月1日以降できる限り早い時期
提出書類 履歴書、研究歴、研究業績リスト（著書、学術論文、国際会議などに区別）、主要論文別刷（5編程度、コピー可）、主たる研究概要（2000字程度）、今後の研究計画（2000字程度）、教育に対する抱負（2000字程度）、推薦書2通または意見を伺える方2名の氏名・所属と連絡先（E-mail）
応募締切 平成20年4月30日（必着）
送付先 〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科 研究科長 「教員応募書類在中（情報基礎領域・准教授）」と朱書き簡易書留
照会先 情報科学研究科 平石邦彦 E-mail:hira@jaist.ac.jp Tel(0761)51-1281 Fax(0761)51-1149
その他 応募の詳細は本学Webページ (<http://www.jaist.ac.jp/>) の求人情報を参照ください

■北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科

募集人員 助教 1名（任期付き）
所属 情報基礎領域
専門分野 計算モデルや計算理論などの理論面から検証ツールなどを用いた実装までを背景とした、プログラミング言語・言語処理系やプログラム検証・解析の研究開発
応募資格 着任時に博士の学位を有し、上記分野の研究および教育に熱意を有する方
着任時期 平成20年7月1日以降できる限り早い時期
提出書類 履歴書、研究業績リスト（著書、学術論文、国際会議などに区別）、主要論文別刷（3編程度、コピー可）、これまでの研究の概要および今後の研究計画（2000字程度）、教育に対する抱負（2000字程度）、照会者2名の氏名・所属と連絡先（E-mail）
応募締切 平成20年4月30日（必着）
送付先 〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科 研究科長 「教員応募書類在中（情報基礎領域・助教）」と朱書き簡易書留
照会先 情報科学研究科 小川瑞史 E-mail:mizuhiro@jaist.ac.jp Tel(0761)51-1247 Fax(0761)51-1149
その他 応募の詳細は (<http://www.jaist.ac.jp/>) を参照ください

■早稲田大学理工学術院先進理工学部

募集人員	教授, 准教授, または専任講師 1名
所 属	電気・情報生命工学科, 先進理工学研究科 電気・情報生命専攻
専門分野	「電気エネルギー」をキーワードとする分野(電力系統と分散電源の境界領域, 電気エネルギーと環境分野の境界領域, パワーエレクトロニクスなど)
応募資格	博士の学位を有する方, または着任までに取得確実な方. 当学科・専攻の創設理念をよく理解して教育・研究を推進してくださる方. 当学科の基礎教育(電磁気学, 回路理論, プログラミング言語(CまたはJava))の講義を担当できる方. 独立して研究室を運営し学生の指導と研究活動を活発に行える方
着任時期	平成21年4月1日以降で, できるだけ早い時期
応募締切	平成20年5月9日(必着)
提出書類	履歴書(1部), 業績リスト(1部), 主要論文別刷(5編, コピー可(各1部)とそれぞれの要約(各800字程度)), 外部資金獲得状況, これまでの研究概要と今後の研究計画(2000字程度, 1部), 教育に関する抱負(2000字程度, 1部), 当学科・専攻の理念と教育カリキュラム(当学科Webページ参照)に対する意見(2000字程度, 1部), 参考意見を聞くことができる方(2名)の氏名・所属・連絡先
送 付 先	〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学先進理工学部 電気・情報生命工学科連絡事務所内 「電気・情報生命工学科教員選考委員会」「教員公募書類在中」と朱書き簡易書留など *提出書類は返却いたしませんのでご了承ください
照 会 先	電気・情報生命工学科 主任 武田京三郎 E-mail:office@eb.waseda.ac.jp Tel(03)5286-3006 Fax(03)5286-3492
そ の 他	【選考方法】書類選考および面接(そのときの旅費は自己負担) 学科Webページ (http://www.eb.waseda.ac.jp)

■神奈川大学工学部情報システム創成学科

募集人員	特別助手(任期制) 1名 *本学の特別助手として3年以上の経歴と相当の業績を有し, かつ, 相応の教育上の能力を有すると認められるときは, 特別助教への任用が可能となります
専門分野	情報関連分野(情報システム, 情報ネットワークなど)
職務内容	専門分野の研究および研究・教育の補助
着任時期	平成20年10月1日(予定)
応募資格	大学院博士後期課程修了(見込みも含む)または同等以上の研究業績を有する方
提出書類	履歴書(1部, 本学所定書式), 研究業績リスト(1部, 本学所定書式), 主要な著書および論文別刷(コピー可, 主要業績3点についてそれぞれ1000字程度の要約をつけること) *提出書類リストを添付してください *履歴書および研究業績リストは本学Webページ(http://www.kanagawa-u.ac.jp/05/kyoindataprofile/koubo.html)よりダウンロードしてください *外国籍の方は「外国人登録証明書の写し」を添付してください *選考の過程で健康診断書の提出を求められることがあります
応募締切	平成20年6月10日(必着)
送 付 先	〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学 学長室気付 工学部長 佐藤祐一 Tel(045)481-5661(代) 「工学部 情報システム創成学科・特別助手」教員応募書類と明記し書留 *原則として応募書類は返却いたしません。返却を希望される方はその旨明記してください
照 会 先	情報システム創成学科 主任 進藤 晋 E-mail:shindoh@cc.kanagawa-u.ac.jp Tel(045)481-5661(ext. 3731) Fax(045)413-6565
そ の 他	【採否通知】平成20年8月末までに採否に関する通知をする 【任期】5年とする *特別助教に任用された場合は, 特別助手として在職した期間と通算して5年の任期とします *特別助手(特別助教)は所定の手続きを経て, 1回に限り任期を5年間更新できる可能性があります。ただし, 更新時の年齢は, 任期を更新する年度の4月1日現在において満35歳以下とします *待遇, 任期の更新などの詳細については人事室へ問い合わせてください 【選考方法】(1)書類審査 (2)必要な場合は面談の機会を設ける



FIT2008 講演募集案内
第7回情報科学技術フォーラム

公式サイト <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2008/>

【会期】2008年9月2日(火)～4日(木)

【会場】慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
(神奈川県藤沢市遠藤 5322)

電子情報通信学会情報・システムソサイエティ(ISS)並びにヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)と情報処理学会(IPSJ)とは、2002年から合同で毎年秋季に、「情報科学技術フォーラム(FIT:Forum on Information Technology)」を開催しており、2008年9月には第7回目を慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催します。

本フォーラムは、ISS ソサイエティ大会と IPSJ 全国大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれず、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきており、前回の FIT2007 では 853 件の論文発表が行われました。

皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

また FIT の特徴の一つは、**船井ベストペーパー賞**、**FIT 論文賞**、**ヤングリサーチャー賞**からなるその論文表彰制度にあり、以下のようにまとめられます。皆様、是非ともチャレンジして下さい。

<p>船井ベストペーパー賞</p>	<p>査読付き論文で採択された論文の中から、査読会議において各分野の応募総数の 5% を上限として優秀な論文を推薦し最終的に 10 件程度の論文を選定。選定された論文は、FIT2008 の初日に行われる FIT 論文賞セッション(船井ベストペーパー賞選考会)において発表、その中から受賞論文 3 件 を選定。受賞論文には、表彰式(FIT2008 会期中)にて賞金 20 万円を船井情報科学振興財団より贈呈。</p>
<p>FIT 論文賞</p>	<p>上記船井ベストペーパー賞と同様の選定手続きを経て、FIT 論文賞セッション(船井ベストペーパー賞選考会)において発表、その中から受賞論文 7 件程度を選定。受賞論文には、表彰式(FIT2008 会期中)にて賞金 5 万円を FIT 推進委員会より贈呈。</p>
<p>ヤングリサーチャー賞</p>	<p>発表件数の 1.5% を上限として、2008 年 12 月 31 日現在で 33 歳未満の講演者(査読付き論文及び一般論文)を対象に優れた発表を選定する。受賞者には賞金 3 万円を FIT2009 の表彰式にて FIT 推進委員会より贈呈。</p>

【申込主要日程】

■査読付き論文

〔登録申込／投稿受付開始〕

平成 20 年 3 月 10 日(月)

〔登録申込締切り／査読用原稿の投稿締切り〕

平成 20 年 4 月 24 日(木) 15:00

〔査読の採否結果通知〕

平成 20 年 6 月 23 日(月)

■一般論文

〔登録申込／投稿受付開始〕

平成 20 年 5 月 1 日(木)

〔登録申込締切り〕

平成 20 年 5 月 30 日(金) 15:00

〔カメラレディ投稿締切り〕

平成 20 年 7 月 4 日(金) 15:00

【申込みの方法、注意事項】

講演申込み及び論文原稿投稿は FIT2008 公式サイトよりお願い致します。

一人が複数の発表を行うことを認めます。ただし、内容が極めて類似したものを数件にわたって発表することはできません。なお、会場数、会期日数など制約によりプログラム編成上、講演部門の変更を行うこともございますのであらかじめ御了承下さい。

【講演募集内容】

最近行った研究及び調査の報告、または成果を上げた新しい企画及び試験結果の報告、新製品の紹介等で、学術的に価値のある未発表のものに限ります。

論文の種類には、査読付き論文と一般論文があります。

【査読付き論文】

査読付き論文は、FIT 設立に伴い新たに導入された企画です。査読者や読者に研究内容が十分に伝わるように、最大 4 ページに緩和された論文ページ数を活用して下さい。査読付き論文に投稿されて不採択となった場合には、一般論文として扱います。

※査読付き論文の募集を行わず一般論文のみの募集となる研究分野があります。詳しくは「募集分野」の項を御覧下さい。

※今回から「国際会議におけるコンファレンスペーパー扱い」へと位置付けが変更となります。

【一般論文】

論文ページ数・講演時間は、査読付き論文と同じですが、査読を行わない分、投稿締切りが約 2 か月遅くなります。

【募集分野】

以下の 15 の分野で論文の募集を行います。なお論文募集、査読付き論文の査読などは、情報処理学会の研究会と電子情報通信学会(情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ(研究グループと時限研究会を含む))で進めます。各分野に対応する研究会は以下のようになります。

なお、☆は情報処理学会、※は電子情報通信学会情報・システムソサイエティ、◇は電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループを示します。

【査読付き論文の募集は行わず一般論文のみの募集となる研究分野がございますので御注意下さい。】

■は一般論文のみの募集となる研究分野

●A:モデル・アルゴリズム・プログラミング

- A-1 ☆アルゴリズム(AL)
- A-2 ☆数理モデル化と問題解決(MPS)
- A-3 ☆プログラミング(PRO)
- A-4 ※コンピュータシミュレーション(COMP)

●B:ソフトウェア

- B-1 ☆ソフトウェア工学(SE)
- B-2 ☆ハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)
- B-3 ☆システムソフトウェアとオペレーティング・システム(OS)
- B-4 ☆デジタル・ドキュメント(DD)
- B-5 ※ソフトウェアサイエンス(SS)
- B-6 ※知能ソフトウェア工学(KBSE)

●C:ハードウェア・アーキテクチャ

- C-1 ☆システム LSI 設計技術(SLDM)
- C-2 ☆計算機アーキテクチャ(ARC)
- C-3 ☆組み込みシステム(EMB)
- C-4 ※コンピュータシステム(CPSY)

- C-5 ※ディペンダブルコンピューティング (DC)
- C-6 ※リコンフィギャラブルシステム(RECONF)
- D:データベース
 - D-1 ☆データベースシステム(DBS)
 - D-2 ☆情報学基礎(FI)
 - D-3 ※データ工学(DE)
- E:自然言語・音声・音楽
 - E-1 ☆自然言語処理(NL)
 - E-2 ☆音声言語情報処理(SLP)
 - E-3 ☆音楽情報科学(MUS)
 - E-4 ※言語理解とコミュニケーション(NLC)
 - E-5 ※音声(SP)
- F:人工知能・ゲーム
 - F-1 ☆知能と複雑系(ICS)
 - F-2 ☆ゲーム情報学(GI)
 - F-3 ※人工知能と知識処理(AI)
 - F-4 ※情報論的学習理論(IBIS)
- G:生体情報科学
 - G-1 ☆バイオ情報学(BIO)
 - G-2 ※ニューロコンピューティング(NC)
 - G-3 ※MEとバイオサイバネティクス(MBE)
 - G-4 ※医用画像(MI)
- H:画像認識・メディア理解
 - H-1 ☆コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)
 - H-2 ※パターン認識・メディア理解(PRMU)
- I:グラフィクス・画像
 - I-1 ☆グラフィクスとCAD(CG)
 - I-2 ☆オーディオビジュアル複合情報処理(AVM)
 - I-3 ☆エンタテインメントコンピューティング(EC)
 - I-4 ※画像工学(IE)
- J:ヒューマンコミュニケーション&インタラクション
 - J-1 ☆ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)
 - J-2 ※異文化コラボレーション(IC)
 - J-3 ※ネットワークロボット(NR)
 - J-4 ◇ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)
 - J-5 ◇ヒューマン情報処理(HIP)
- K:教育工学・福祉工学・マルチメディア応用
 - K-1 ※教育工学(ET)
 - K-2 ※サイバーワールド(CW)
 - K-3 ◇マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)
 - K-4 ◇福祉情報工学(WIT)
- L:ネットワーク・セキュリティ
 - L-1 ☆インターネットと運用技術(IOT)
 - L-2 ☆コンピュータセキュリティ(CSEC)
 - L-3 ☆システム評価(EVA)
 - L-4 ※情報通信システムセキュリティ(ICSS)
- M: ユビキタス・モバイルコンピューティング
 - M-1 ☆グループウェアとネットワークサービス(GN)
 - M-2 ☆ユビキタスコンピューティングシステム(UBI)
 - M-3 ☆モバイルコンピューティングとユビキタス通信(MBL)
 - M-4 ☆高度交通システム(ITS)
 - M-5 ☆マルチメディア通信と分散処理(DPS)
 - M-6 ※ユビキタスコンピューティング(UBIC)
- N:教育・人文科学
 - N-1 ☆コンピュータと教育(CE)
 - N-2 ☆人文科学とコンピュータ(CH)
 - N-3 ☆電子化知的財産・社会基盤(EIP)
- O:情報システム
 - O-1 ☆情報システムと社会環境 (IS)
 - O-2 ※オフィスインフォメーションシステム(OIS)
 - O-3 ※ソフトウェアインテグレイズモデリング(SWIM)

【使用言語】
日本語または英語

【論文ページ数・講演時間】
論文ページ数は査読付き論文，一般論文とも 2～4 ページです。なお，3 ページ目以降はエキストラページとなります。
論文ページ数：2～4 ページ
講演時間：1件 20 分(発表時間 15 分，質疑時間 5 分)

【講演使用機器】
査読付き論文，一般論文とも，PC プロジェクターとします。

【講演者の資格】
講演者の資格は以下のとおりです。

会 員	電子情報通信学会，情報処理学会，電気学会，照明学会，映像情報メディア学会及び電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会(KIISE，大韓電子工学会，IEEE/Com. Soc.，IEEE/LEOS，IEEE/EDS，IEEE/CS)または情報処理学会と協定を締結した海外の学会(ACM，IEEE，IEEE/CS，KIISE，CSI)の個人会員に限ります。
非会員	上記の学会会員以外の方。

【講演参加費(税込み)】
講演参加費は，発表料，論文集 CD-ROM，プログラム，参加章の代金を含みます。なお，CD-ROM は FIT 開催前に講演者の方に送付しますが，プログラム，参加章は会場でのお引き渡しとなります。

また，登録申込締切り後，講演の取消しをされても講演参加費等お申込内容に基づく費用につきましてはお支払いを頂くこととなりますので御注意下さい。

正会員	10,000 円
学生会員	6,000 円
一般非会員(社会人)	20,000 円
学生非会員	12,000 円

【エキストラページ費用(税込み)】
エキストラページを利用された場合には，講演参加費にプラスして以下の費用を頂きます。
エキストラページ費：3,000 円/ページ

【別刷代(査読付き論文の採択者のみ)(税込み)】
査読付き論文に採択された方には論文の別刷(100部)を御購入頂きます。別刷代は，エキストラページの有無にかかわらず以下のとおりです。
別刷代：20,000 円

【講演者予稿分冊頒布】
講演者には，御自身の論文が掲載されている講演論文集を 1 部に限り，6,000 円で，講演申込時に同時受付致します。御希望の方は講演申込書の「講演論文集を希望する」にチェックをお願いします。
なお，講演論文集の一般販売は，個人購入の場合 1 部 10,000 円，団体購入の場合 15,000 円となります。

【最新情報確認のお願い】
FIT2008 に関する最新情報は，FIT2008 公式サイトへ逐一掲載してまいりますので御確認をお願い致します。

【その他】
手話通訳などの情報保障を御希望の場合には FIT2008 事務局まで御連絡下さい。

◆◆ 有料会告について ◆◆

本会の主催・共催行事および協賛・後援記事の次第書（論文募集，参加案内等）の本誌掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。

記

■掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金（消費税込）	
論文募集／ 参加者募集	国際会議，シンポジウム，ワークショップ，講演会，講習会などの論文募集・参加者募集	1 ページ，1/2 ページまたは 1/4 ページ	（主催・共催）	
			1 ページ	52,500 円
			1/2 ページ	31,500 円
			1/4 ページ	21,000 円
			（協賛）	
広告として取り扱う				
人材募集	国公立教育機関，国公立研究機関， 企業の人材募集	10 行程度	国公立教育機関，国公立研究機関	21,000 円
			賛助会員（企業）	31,500 円
			賛助会員以外の企業	52,500 円
* 本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り，追加料金 4,000 円で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。				

■申込方法 任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先，Web 掲載の有無（人材募集のみ）などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

■原稿の書き方

●行事次第書： A4 判カメラレディまたは PDF ファイル（フォント埋め込み）とします。
 （1 ページ） 天地 260mm × 左右 175mm
 （1/2 ページ） 天地 130mm × 左右 175mm
 （1/4 ページ） 天地 65mm × 左右 175mm
 * A4 判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。

●人材募集： 次の項目を明記し，E-mail または Fax，郵送にてお送りください。
 [募集職種，募集人員，(所属)，専門分野，(担当科目)，応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]
 * なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

■申込期限 毎月 15 日を締切日とし，翌月号（15 日発行）に掲載します。

■掲載料金 掲載号発行日に料金を請求いたしますので，3 カ月以内にお支払いください。

■掲載申込先 (社) 情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係）
 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel (03) 3518-8371 Fax (03) 3518-8375

ファッションや歌のように言葉にも流行がある。一度流行ったものは、時期が過ぎると廃れてしまうのが世の常で、世相を反映していた言葉はその時代とともに置いていかれてしまう。たとえば「ストレス」という言葉もかつてほど使われなくなったように思う。言葉が多様化したのか、本来の意味以上に「ストレス」という言葉が病的なイメージになってしまったせいなのか、あまり耳にしなくなった。多く使っていた頃よりよほど今の方がストレスを溜めすぎて、感情のコントロールができていない人が多いように思えるのだが。

ストレスを溜めない、またはストレスを感じないようにする方法はいろいろあると思う。どんな方法をとるにしても、とにかくストレスを感じている時間をできるだけ短くすべきだというのが私の自論だ（あくまでも自論）。

私は通勤電車の中で本を読み気分転換をしている。小説の非日常の世界に入るのは簡単で、手っ取り早い。私の日常の主人公は自分だが、小説の中は小説の主人公がいる。客観的に見ていたり、主人公や脇役に重ねて見ることができる。しかし、残念なことに御茶ノ水へ事務局が越してから4年になるが、私の

通勤時間がぐっと減り、新聞小説程度の量しか読むことができなくなった。葉の位置を変えずに、本を閉じることが少なくなった。贅沢な悩みだと言われそうだが、その短い時間に気分転換できているのかが分からない。気づかないうちにストレスが溜まっているのかもしれない。ああ、早く続きが読みたいと思うことだけでも、ストレスを生んでいるような気がする。

相変わらず私はこの「おふいすらん」でアナログなことばかり書いているが、昨今の昭和ノスタルジーやレトロブームにしても、単に懐かしいと思うばかりではなく、皆何か「大切なもの」を過去に置いてきてしまったと気づき始めたのかもしれないなどと思っている。

（細田直子／管理部門）



■ 各種問合せ先 ■

(社) 情報処理学会 (本部) ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担当	E-mail	Tel (ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会、会費、変更連絡、退会、在会証明、会員証、会費等口座振替、海外からの送金
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容、広告掲載、転載許可、出版、著作権
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌 (ジャーナル) の編集・査読
調査研究/教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録、研究発表会、シンポジウム、研究グループ、論文誌 (トランザクション)
■ 事業部門			
事業/国際	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会、FIT、連続セミナー、プログラミング・シンポジウム、国際会議、IFIP 委員会
■ 管理部門			
総務	somu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会、支部、役員選挙、名誉会員
経理	keiri@ipsj.or.jp		出納、送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画、電子化委員会、電子図書館、IPSJ メールニュース
図書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■ 情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp		標準化フォーラム 〒 105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/

情報処理学会の会員になりませんか!

www.ipsj.or.jp

社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

情報処理学会は IT にかかわる皆様のお役に立ちます。

新規会員
募集中

■活動の概要

- 機関誌（「情報処理」「情報処理学会論文誌」）の発行
- 各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー他）
- 情報処理教育活動
- 国際交流
- 標準化活動
- 出版活動

■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

個人会員

- 正会員：当学会の中心的会員で、IT 分野に携わっているかまたは興味のある個人
- 学生会員：学校に在学中の個人
- 準会員：小中高等学校の教職員、理事会が認めた海外居住の個人
- 名誉会員：当学会の活動において特別な功績のあった個人

賛助会員

当学会の活動をサポートする法人

■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。



1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます。

2008年

特集：ソフトウェアテストの最新動向（2月号）、IPv6 技術の研究開発（3月号）
連載：研究会千夜一夜、仮想マシン道しるべ、他

2 電子図書館（BookPark）で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

3 「連続セミナー」に会員価格（7,000 円お得）で参加できます。

時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2007 年度は「情報セキュリティ 2.0」をテーマに、6 回の開催がありました。

4 ホットトピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000 円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。

ホット
トピックス

インターネット、E ビジネス、セキュリティ、ユビキタス・モバイル・情報家電・組み込み、ディメンダブルシステム、低消費電力化、リコンフィギャラブルプロセッサ、グリッド、UML・オブジェクト指向・アスペクト指向、エージェント、セマンティックウェブ・XML・データマイニング、マルチメディア、エンタテインメント・バーチャルリアリティ、e-ラーニング、バイオインフォマティクス、バイオメトリクス、量子コンピューティング・DNA コンピューティング、進化的計算・複雑系、ITS、金融工学・経済物理

5 出版図書が会員割引で購入できます。

IT Text シリーズ、英文図書 Advanced Information Technology シリーズ、等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。

お問い合わせは、
(社) 情報処理学会 会員サービス部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370 Fax.(03)3518-8375 mem@ipsj.or.jp

ご意見をお寄せください!

【4月10日頃までにお出しください】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)
http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4903.html Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp
(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

※ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。
http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢: (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別: (a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合:
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9-
10. 今月号 (2008年3月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a...大変参考になった b...よい c...普通, どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない]

特集: IPv6 技術の研究開発 (産学連携と国際展開の軌跡)

- 巻頭言 10-1-
- 1. IPv6 システムの相互接続性の確立戦略 10-2-
- 2. IP アドレス管理の最新動向と研究開発に対するインパクト 10-3-
- 3. アプリケーション IP 化の進展と IP バージョン 6 10-4-
- 4. IPv6 ルーティングの実態 10-5-
- 5. IPv6 網におけるスケーラブルリアルタイムメディア伝送と放送の実現に向けて 10-6-
- 天才ハッカー 萩野純一郎博士を悼む 10-7-
- 小特集: 複雑ネットワーク科学の拡がり
- 1. ネットワーク科学が目指すもの 10-8-
- 2. 故障と攻撃の両方に強いつながり方とは? 10-9-
- 3. 地域通貨の流通ネットワーク分析 10-10-
- 4. 企業組織ネットワークの解析 10-11-
- コラム: (その①) ネットワーク構造から見た学術研究トピックの分析と学際研究の可能性発見 10-12-
- コラム: (その②) 特許引用ネットワーク分析: 企業競争力源泉としての知的財産権の強化に向けて 10-13-
- パネル討論: ネットワーク科学の今後 10-14-
- これから学ぶ方々への書籍紹介 10-15-
- 仮想マシン道しるべ: 基幹サーバへの仮想化ソフト Xen の適用 10-16-
- 標準化よもやま話: 国際標準化スキルの育成は難しい 10-17-
- 研究会千夜一夜: データで見るコンピュータセキュリティ研究会の活動 10-18-
- 研究会千夜一夜: 高度交通システム (ITS) 研究会 10-19-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。

12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマなどありましたらお書きください。

IPv6の研究開発が始まって約10年。IPv4からv6へのアドレス空間の変更作業は着実に進んでいることは意外に知られていません。さらに日本の技術者や研究者が世界の先頭に立って牽引してきたことも、もっと知られることはありません。itojunのような「プログラムを書くことが何より楽しい！」若者が、自分の感じるインターネットの問題を「ふーん、どうしようっかなあ。あ！そうだ！」と、少しずつプログラムを書くことで解決していった結果、世界を動かしました。BSDはもとよりWindowsもMacもKAMEを採用しました。我が国の情報処理学研究始まって以来の快挙です。立派なトップダウンの

構想も巨額な予算もなく、食べる食えないなんて考えず、黙々と「ここをこう変えたほうが良くなる」という議論と思考を楽しみ、書いたプログラムで自己を表現する。これこそ情報処理学者のあるべき姿ではないでしょうか。ぜひ、このことが、会員の皆様と我が国のIT産業にとっての「元気の素」になればいいなと思って企画しました。ご協力いただきました執筆者の皆様、編集委員会の皆様、そして村井先生、本当にありがとうございました！（2008年立春）

（江崎 浩，中川晋一／本特集エディタ）

今月の小特集では、北陸先端科学技術大学院大学の林幸雄先生をゲストエディタにお迎えし、複雑ネットワーク科学の初歩から最新応用状況までを、コンパクトにまとめていただきました。

複雑ネットワーク科学は、今ホットである反面、「キーワードだけは知っているが…」とか「具体的にどういう役に立つのか」あるいは「物理ネットワークと社会ネットワークは全然違う話題じゃないか」など、ある種遠くから冷めた目で見ている人々も多いのではないのでしょうか。書籍紹介という比較的珍し

い記事も含んだこの特集が、そういう方々に、複雑ネットワーク科学の広がりや課題を少しでも理解いただき、面白さを感じていただく助けになれば幸いです。

エディタとして「初めての方にも少しでも分かっていたきたい」の一念で、林先生には随分失礼なお願いを申し上げたような気がいたします。それにもかかわらず、快く対応いただいた著者の皆様そして林先生に、ここで改めてお礼申し上げます。

（山崎竹視／本小特集エディタ）

次号（4月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」要求工学

要求工学の現状と課題／要求獲得技術／問題フレームについて／非機能要求とゴール指向要求定義／非正常系の要求分析／要求仕様の品質特性

「小特集」情報処理で社会を守る

社会情報インフラの安全と信頼／東証次世代システムの取り組みについて一次世代システム開発を通して我が国IT分野への要望一／国内物流と海外物流における情報システムの安全対策事例紹介～RFIDなど新技術によるモノと情報の結びつけでの要望～／航空運送事業における情報システムの重要性和システムが担うべきディペンダビリティについて／列車の運行から改札までの鉄道システムの事例

解説

- 先端芸術音楽創作の研究コンソーシアム「音塾」の構想…………… 小坂直敏
- 組織内認証基盤の構築—大阪府立大学における認証基盤の構築事例—…………… 宮本貴朗 他
- BD-ROMの技術概要…………… 山上 保 他
- 大学間コラボレーション支援システム—SCSの10年とこれから—…………… 近藤喜美夫
- 特許工学について…………… 谷川英和

連載 仮想マシン道しるべ

コラム 研究会千夜一夜

複写される方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません(社外頒布用の複写は許諾が必要です)。権利委託先:(中法)学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619
なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、本会へご連絡ください。

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.

<All users except those in USA>
Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

掲載広告カタログ・資料請求用紙

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4色	2色	1色
表2	346,500円 (税抜330,000円)	—	—
表3	288,750円 (税抜275,000円)	—	—
表4	404,250円 (税抜385,000円)	—	—
表2対向	315,000円 (税抜300,000円)	—	—
表3対向	278,250円 (税抜265,000円)	199,500円 (税抜190,000円)	162,750円 (税抜155,000円)
前付1頁	262,500円 (税抜250,000円)	173,250円 (税抜165,000円)	141,750円 (税抜135,000円)
前付1/2頁	—	—	84,000円 (税抜80,000円)
前付最終	—	—	155,400円 (税抜148,000円)
目次前	—	—	155,400円 (税抜148,000円)
差込 (A判70.5kg未満 1枚)	288,750円 (税抜275,000円)		
差込 (A判70.5kg～86.5kg 1枚)	367,500円 (税抜350,000円)		
同封 (A判 1枚)	367,500円 (税抜350,000円)		

■「情報処理」

発行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 25,000部
 体裁 A4判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム
 原稿寸法 1頁 天地260mm×左右180mm
 1/2頁 天地125mm×左右180mm
 雑誌寸法 天地297mm×左右210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27
 アドコム・メディア(株) (Tel/Fax/E-mailは下に記載)

*左記料金はポジフィルム納入による料金です。
 *版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *断切広告は上記料金の10%増です。ただし、表4は不可。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（またはE-mailにて必要事項を記入の上）アドコム・メディア(株)宛にご請求ください。

■「情報処理」 49巻3号 掲載広告（五十音順）

- インタフェース…………… 表2 オーム社…………… 表2対向
 NEC…………… 表4 電子情報通信学会…………… 前付最終上

すべての会社を希望

■資料送付先

フリガナ お名前	_____		
勤務先	_____ 所属部署		
所在地	(〒 _____)	_____	
	TEL (_____)	-	FAX (_____)
ご専門の分野	_____		



お問合せ・お申込み・資料請求は
広告総代理店 アドコム・メディア(株)

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp



賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp>) 「会員サービス」のページからも各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 (社) 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail:mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

MITSUBISHI
Changes for the Better

三菱電機 (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)



株式会社NTTデータ
(株) NTT データ

Google

グーグル (株)



NTTコムウェア
NTTコムウェア (株)



(株) NTT ドコモ



日本電信電話 (株)

Microsoft

マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)

OKI

沖電気工業 (株)



(株) インプレス IT

Panasonic
ideas for life

松下電器産業 (株)

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 100 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙または Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enquete.html>) をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

(社) 情報処理学会 会誌編集部門

〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax (03)3518-8375